

(算数科)

**意欲をもって学習に取り組む中泉っ子を育てる  
ー算数科における基礎・基本の定着をめざしてー**

大阪市立中泉尾小学校 研究推進委員会

**1 研究主題設定の理由**

本校では、「みんななかよく よくかんがえて きっとやりぬく」という教育目標のもと、学校経営の重点を「豊かな心を持ち、たくましく生きる子ども育てる」と設定し、教育活動を進めている。

一昨年度より研究教科を算数科に定め、上記の主題のもと、「数と計算」の領域にしぼって研究を進めてきた。基礎・基本を身につけるため、課題解決に向けての学習の仕方を学ばせるとともに、子どもたち一人一人が「できた」「わかった」「もっとやってみたい」という、成就感や達成感、学習する喜びを味わうことのできる授業づくりをめざし取り組んできた。その結果、〈出あう〉〈気づく〉〈考える〉〈振りかえる〉〈活かす〉という5段階の学習過程を意識して学習に取り組めるようになってきた。さらに、「全国学力・学習状況調査」においても、算数Aで得点の伸びが見られた。しかし、一方で、問題文の意味を的確にとらえられていないなどの理由から、学習したことを活用できないという課題が残った。また、単元を終えてすぐに実施するテストでの正答率が高いが、「しんだん」や「全国学力・学習状況調査」のように時間がたつて行うテストになると正答率が下がるという実態も見られた。

そこで、本年度も、学習過程の工夫や基礎的・基本的な力を身につけさせるための支援のあり方について引き続き研究し、「問題の意味を的確につかんで立式し、見通しを持って自力解決していく力」を高めていきたいと考えた。さらに、「言葉、数、式、図等」を使って自分の考えを表したり、説明したりする場を設定することで、算数科における「思考力・判断力・表現力」を育成し、学びを確かなものにしたいと考え、取り組みを進めた。

**2 研究の概要**

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

〔基礎学力を身につけさせる手立て〕

**(1) 学習過程の工夫**

子どもたちが主体的に問題に取り組んだり、自ら解決の方法を考えたり、学んだことを活用したりしていくためには、「学習の仕方」を身につけさせることが必要である。そこで、問題解決学習の5つの学習指導段階を基盤とした授業展開で学習を進めることとする。さらに、その中でより効果的な授業展開となるよう工夫を行う。

○前時との違いがより明確になるように問題と出あわせる。

○ノートを書く時間を短縮するよう、あらかじめ問題を用意する。

○〈気づく〉の段階で解決の方法を見通せるような発問をする。 など

**(2) 学習形態の工夫**

学年の実態や単元の内容に応じて、子どもたちが主体的に学べる学習形態を工夫する。また、自分の考えを伝え合う際にも、ペアやグループ、全体など、1時間の

中で場の工夫を行う。

○ T T

○ 習熟度別指導学習

○ ペア学習，グループ学習 など

### (3) 個に応じた指導の工夫

本校の実態として，個人差が非常に大きいことが挙げられる。「自分でできた」「わかった」という成就感や達成感を感じられるよう，自力解決のための支援の仕方を工夫するとともに，理解がより深まるような活動を取り入れていく。

○ ヒントカード

○ ワークシート

○ 具体物や半具体物を使った活動 など

### (4) 授業以外の取り組み

基礎学力の定着を図るため，授業以外での取り組みを工夫する。

○ 中いずタイム（1時間目の前の朝学習の時間）の活用

○ 他教科との関連

○ 既習事項の掲示

○ 放課後自主学習 など

## 3 研究の成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

- 5段階の学習過程が定着し，学習の仕方を身につけることができたので，授業の流れがスムーズになり，見通しをもって学習に取り組めるようになった。また，1時間の流れがつかめるように全学年でノートの書き方を統一したので，前のノートを見返すことが習慣となり，主体的な学習につながった。
- 自分の考えを図や言葉で表す活動を繰り返し行うことで，理解を確かなものにすることができた。図に表すことで，問題場면을正しくとらえて立式したり，自力解決したりする力が身についた。
- 単元に応じて，T Tや習熟度別少人数学習など，どの形態が学習内容を理解させるのに一番適しているかを吟味し，取り入れることで，それぞれの児童のペースに合った指導を進めることができた。さらに，ヒントカードや習熟プリントなど，一人一人の理解に応じた支援により，達成感や自信につながった。

### (2) 今後の課題

- これまでの3年間で身につけてきた，学習の流れやノートの書き方などの基本的な学習の仕方をこれからも継続して指導していくとともに，他の教科へも広げていく。
- 児童が自分の課題に応じて，習熟度別プリントやタブレットを活用し，自ら進んで学べるような環境づくりに取り組む。
- 児童の実態をつかみ，教材について学び，児童と教材の効果的な出あわせ方を考えていく。